

授業科目名	ダンスワークショップ実習 A	担当教員	木田 真理子 寺田 みさ子
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1 年第 2 クォーター		
講義内容	この授業の目的は、ダンサーとしてダンス作品のクリエーションに関わる上で必要な想像力ないし技術を培うものである。振付家や演出家からの指示に従うだけでなく、ダンサーとしてその指示の意味を理解・解釈し、考えを発展させる。短期間で集中して（夏季集中講義になる）、ダンサーの仕事ならびにダンスを巡る仕事に焦点をあてたワークショップを行う。		
到達目標	1.様々な動きからダンスを生み出すことができる。 2.ダンサーに必要な諸能力を示すことができる。 3.振付家や演出家と共同してアイデアを発展させることができる。		
授業計画	<p>本実習の詳しい内容については実習説明会であらためて説明しますが、大きくは以下のような内容を考えています。7～8 日間の集中講義（合計 48 時間）になります。</p> <p>本実習では、多様な身体性、身体技法、身体表現に触れる経験を通して、「身体と空間への解像度を上げる」ことを大切にしています。</p> <p>パターン 1</p> <p>◆基礎トレーニングでは、体の構造と動きを解剖学的に捉える練習を行い、徐々に空間へ意識を向けていきます。自他の身体の関係を設定し、身体を観察または内観し、情報として捉え活用、伝達、交換することで新たな動きや関係性を生み出していきます。</p> <p>◆メインワークでは、映像を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">・いくつかの映像を集めてもらいます（映画、テレビ番組、アニメ、ダンス映像なども含めて良いです。）・映像から動きを取り出し、自らの身体で他者の動きをトレースする練習を行います。・日常の動きをトレースするところから出発して、最終的には踊りを立ち上げます。・こういった要素が動きのもとになっているのか分析/言語化していきます。 <p>パターン 2</p> <p>◆基礎トレーニングでは、リリーステクニックのメソッドをベースに、自身の身体を解剖学的に観察し、身体の重さや呼吸と動きの関係などに意識を向けながら、より明確でスムーズな身体の使い方を開発していきます。</p> <p>◆メインワークでは、いくつかの動きのモチーフを用いてダンス空間を立ち上げます。</p> <ul style="list-style-type: none">・こちらが提案するいくつかの振付を覚えてもらいます。		

- ・振付を練習する中で、動きに含まれる力学や、動きと音楽の関係などを探ります。
- ・それらの動きをモチーフとして即興を行い、他者や空間との関係を探ります。
- ・即興とフィードバックを繰り返す中で、気付いたことを言語化していきます。

(授業の進め方一例)

1：イントロダクション

授業内容・目的・スケジュール・成績評価方法などについて説明。
体や空間に対しての解像度を上げるために、映像から動きを取り出しトレースする練習を行う。

2：映像から踊りを立ち上げる 1（自分や身近な人の動き）

映像から日常の動きを取り出しトレースする。
動きのクオリティを映像の動きに近づける。
受講者同士で動きを見せ合い相手の動きを記述する。
記述した内容を伝える。伝える前と後で動きのクオリティや感覚がどのように変化したのかを話し合う。

3：映像から踊りを立ち上げる 2（日常の動き）

前回の授業の映像と、映像の動きをトレースすることで生み出された受講者の動きを比較して、日常の動きがダンスになることについて話し合う。
また、トレースされた動きを自由に組み変えることに挑戦する。

4：映像から踊りを立ち上げる 3（ダンスの動き）

トレースしてみたい映像を選ぶ。
選んだ映像をよく観察して、自分自身の動きのクオリティを映像の動きに近づける。
受講者同士で動きを見せ合い相手の動きを記述する。
記述した内容を伝える。伝える前と後で動きのクオリティや感覚がどのように変化したのかを話し合う。

5：映像から踊りを立ち上げる 4（ダンスの動き）

映像からトレースされた動きを意図的に変化させ、新たな動きをつくる。

6：映像から踊りを立ち上げる 5（複雑な動き）

映像から複雑な動きを取り出しトレースする。
動きのクオリティを映像の動きに近づける。
受講者同士で動きを見せ合い相手の動きを記述する。
記述した内容を伝える。伝える前と後で動きのクオリティや感覚がどのように変化したのかを話し合う。

7：映像から踊りを立ち上げる 6（複雑な動き）

前回の授業の映像と、映像の動きをトレースすることで生み出された受講

	<p>者の動きを比較して、映像の踊りとライブで見る踊りの違いを話し合う。 トレースされた動きを意図的に変化させ、新たな動きをつくる。</p> <p>8：まとめ 1～7でうまれた動きを体で振り返る。 動きをトレースするとき、なにがトレースされているのか話し合う。</p>
事前・事後 学習	劇場、テレビ、インターネットなどあらゆるメディアを駆使して普段からダンスに触れる時間を確保しておくこと。
テキスト	特に指定なし
参考文献	授業内で適宜紹介する。
成績評価 の 基 準	<p>平常点：70%（授業内での姿勢・提案・協働、その過程での掘り下げを評価する） レポート30%（各授業のフィードバックペーパー、実習終了後のレポートを評価する）</p>
履修上の注意 履修要件	<p>全日程の参加を原則とするので、日時をしっかりと確認すること。 他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合は教員とよく相談の上で履修してください。</p>
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	<p>実習の詳しい内容については、説明会で説明します。 履修を考えている方は履修希望書の提出をお願いいたします。定員を超える場合、担当教員が希望書を読んだうえで選考をおこないます。 希望書の無記入、締切後の提出は選考に影響しますので、気をつけてください。</p>